

AUBADE HALL CALENDAR

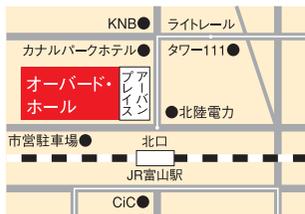
2011 11	7	月	シルヴィ・ギエム・オン・ステージ2011 シルヴィ・ギエム&東京バレエ団HOPE JAPAN 【開演】18:30 【問】北日本放送販売促進事業部 076-432-5555
	8	火	加藤ミリヤ コンサート 【開演】19:00 【問】サウンドソニック 076-291-7800
	9	水	安全地帯 コンサート 【開演】18:30 【問】サンライズプロモーション北陸 025-246-3939
	18	金	桐朋アカデミー・オーケストラ特別演奏会 【開演】19:00 【問】桐朋学園富山キャンパス事務部演奏課 076-434-6800
	19	土	ディズニー・オン・クラシック まほうの夜の音楽会2011 【開演】18:00 【問】北日本放送販売促進事業部 076-432-5555
	20	日	劇団四季オリジナルミュージカル『夢から醒めた夢』 【開演】17:30 【問】劇団四季 全国公演本部 0120-660-442
	23	水	祝 さだまさしコンサートツアー2011 ～Sada City～ 【開演】17:00 【問】キョードー北陸チケットセンター 025-245-5100
	24	木	葉加瀬太郎「コンサートツアー2011 ザ・ベスト・オブ葉加瀬太郎」 【開演】19:00 【問】FOB企画 076-232-2424
	27	日	綾小路きみまろ爆笑スーパーライブ 【開演】14:00 【問】三州プロモーション 0532-56-3333
	30	水	山下達郎コンサート 【開演】18:30 【問】キョードー北陸チケットセンター 025-245-5100
2012 12	5	月	これぞ昭和歌謡の宝宝箱や〜! 渥美二郎・林あさ美・彦摩呂 【開演】19:00 【問】MIN-ON推進2部 03-5362-3455
	8	木	クリスマス☆ゴスペル2011 グローリー・ゴスペルシンガーズ 【開演】18:30 【問】北日本放送販売促進事業部 076-432-5555
	11	日	AMADEUS (アマデウス) 【開演】13:00/18:00 【問】富山市民文化事業団 076-445-5610
	23	金	祝 スーパー戦隊スーパーライブ 【開演】11:00/15:00 【問】北日本放送販売促進事業部 076-432-5555
	25	日	第九交響曲“歓喜の夕べ”2011 【開演】18:00 【問】北日本新聞社事業部 076-445-3355
	2012 1	7	土
3		金	ミュージカル「ハロー・ドーリー!」 【開演】18:30 【問】富山市民文化事業団 076-445-5610
4		土	ミュージカル「ハロー・ドーリー!」 【開演】13:00/18:30 【問】富山市民文化事業団 076-445-5610
5		日	ミュージカル「ハロー・ドーリー!」 【開演】13:00 【問】富山市民文化事業団 076-445-5610

第8回 オーバード・ホール ピアノ体験 〈参加者募集〉

オーバード・ホールの舞台上でピアノの名器「ベーゼンドルファー」を弾いてみませんか?

- 実施日/2012年1月4日(水)～6日(金)、13日(金)～16日(月)
(お一人1時間)
- 参加料/小・中学生は無料、高校生以上は1,000円
- 問い合わせ/オーバード・ホール管理課 076-445-5620
応募方法など詳細はオーバード・ホールHP
[<http://www.aubade.or.jp>] まで。
- 対象/小学生以上の個人(小学生は同伴者必要)

上記は2011年10月20日現在の情報です。変更および追加となる場合があります。



オーバード・ホール (富山市民文化ホール)

〒930-0858 富山市牛島町9-28 TEL076-445-5620

<http://www.aubade.or.jp> 携帯サイト <http://www.aubade.or.jp/m/>

交通のご案内 JR利用 JR富山駅下車、北口正面から徒歩2分
航空利用 富山空港よりタクシーで20分 バスで富山駅まで25分
お車利用 北陸自動車道富山IC出口から20分

※オーバード・ホールには駐車場がございません。
近隣の有料駐車場をご利用ください。公共の交通機関のご利用をおすすめします。



mitelmitel

シアターライフを楽しむ情報誌「ミテミテ」by オーバード・ホール

2011
Autumn
Vol. 30



- ◎特集1「アマデウス」
演出・主演/松本幸四郎インタビュー
- ◎特集2「ハロー・ドーリー!」
主演/剣 幸、モト冬樹インタビュー

幸四郎の役者魂は、 変わらない。

12月公演『アマデウス』演出・主演の
松本幸四郎さんに聞く。

AMADEUS

—公演に向けて、今の決意をお聞かせください。

初演から30年近くたち、今回7年ぶりの公演となりました。イブセン、チェーホフからアーサー・ミラーに至るまで、20世紀のすぐれた戯曲はたくさんあると思います。このピーター・シェファーの『アマデウス』は、それらに連なる傑作、大事に演じたいと思います。『アマデウス』が21世紀へ受け渡されて行く、きっかけになればいいですね。

—この作品の見どころをズバリ教えてください。

『アマデウス』という作品は男性の嫉妬劇です。ぜひ、女性に観ていただきたい。女性がごらんになると、男性の飼育法がしっかりとつかめて、操縦にとっても役立ちます(笑)。表面はとりつくりっていますが、実は男の嫉妬ほど怖いものはない。裏では女性以上に嫉妬心がどろどろと渦巻いています。

—モーツァルトに嫉妬するサリエリについて、
どう思いますか？

我々役者の世界でもこういうことは、よくあります。人の才能や人気に嫉妬して恨み、つらみを抱きます。ほくもそういう世界に生きてきましたから、役者幸四郎にとっても、他人事ではない芝居なんですね。そういう意味では、あんなこともあるな、こんなことも言ったなとか、言われたなとか、思い当たるのが随所にあります。

—何か好きな台詞とか場面はありますか？

ほくのいちばん好きな台詞のひとつは、モーツァルトが『後宮からの逃走』というオペラを初演したときに、それを聴いていたヨーゼフ皇帝が「音符の数が多すぎはしないか?」と言ったのですが、それにモーツァルトが答える名台詞「多すぎも少なすぎもしない、すべてこのオペラに必要な音符です」。これはもう、自分が常日頃から思っていることでもあり、踊りや歌にも通じること。ただごとではない芝居と感じて、今日まで400回も演じてきました。

—キャストを一新して、稽古が始まっていますが。

モーツァルトという役は、非常にエキセントリックに描かれています。天才の持つちょっと桁はずれの、人間離れた男として描かれています。発する言葉も動きも、常人では考えられないようなことをします。でも、それが自然に演じられるようにならなければいけない。先日日本読みをしたんですが、エキセントリックな台詞を自然に言えるようにテンションを高めておいて、と武田真治くんにはアドバイスしました。武田くんには、新鮮な驚きのある、これが武田真治かと思うようなモーツァルトになって出てきてほしいですね。

—公演を重ねて行くなかで、変化はありますか？

よく、公演のたびに今回はどう変わりますか、と聞かれます。ほくは変わらないと答えます。芝居というものは他のエンタテインメントと違って、一回きりのものではない。それが証拠に歌舞伎っていうのは、400年も数限りない役者が同じ台詞を言い、同じ役を演じ続けて今日があるわけですね。ですから何回やったから、千回やったからどうだと、簡単には言えないところがあります。それは、つまり、結論から言えば、いい舞台でなければならぬわけです。

—幸四郎さんのサリエリは不変? 変わらないのが役者なんですね?

実は初演のときも今回も、役者の気持ちとしては変わってはいないんです。変わっているとしたら、お客様の見る目かもしれません。役者の演技方は同じでも、お客様の目が変化しているのではないのでしょうか。

歌舞伎の世界では1カ月の公演をやる、だんだん巧くなるのではなくて、だんだん下手になるという説があります。変わっていくことが役者の芸としてどうなのかというと、必ずしも変わったことをよしとしてはいけない。また、役者がだんだん巧くなったと思うのは、慣れからくる錯覚だよ、



という先輩役者の言葉があります。下手に変わることにへの戒めなんですね。それにしても『アマデウス』を400回やれたこと、繰り返し上演できることが、ほくにとつての最高の幸福です。

—主演をやり、演出もなさっていますか？

もともとはピーター・ホールのオリジナル演出があります。日本ではジャイルス・

ブロックさんが初演の演出をしています。その後をほくが引き継ぎました。ほくはオリジナルをアレンジメントするという意識でやっています。ただ、現代の日本にあわせた演出にしようとは思いません。ほくはやはり役者ですから、サリエーリとしてイニシアチブをとってやることで、みなさんがついてきてくれるといいなと考えています。

歌舞伎に型(かた)というのがありますが、見栄をきるとか、足を踏み出すとか、型というのはかたちを観たお客さんが賛同してくれて初めて型として残るんですね。それ以外のものは型無しなんです(笑)。型無しという言葉は、そこから出たんですね。型無しでは拍手も起きません。観客がおもしろい、いいな、と思って型。舞台ですばらしい奇跡がうまれる瞬間が、型なんです。そういう意味では、演出も、演技も最終的にはお客様がすべてを決めてくれるということですね。

—幸四郎さんにとって役者とは？

幼い頃、学校へ行くとおしろいだの紅がついてると、よくいじめられました。その時、痛み、苦しみ、悲しみから逃げるのではなくて、学校でのいじめ

よりもっと苦しいこと、稽古ごとや舞台に向かうことで乗り越えてきました。もっと苦しいことに出会うと、学校でのいじめなんて苦にならなくなるんです。そんなつらい稽古の中で、役者っていうのはこういう仕事なのかということが、おぼろげながら見えてきたのを子ども心に覚えています…。

人を傷つけたり誹謗中傷することはだれにもできるけど、人に感動を与えたり、勇気を与えたり、希望を与えることはなかなかできない。そのなかなかできないことを仕事にしているのが俳優、役者だと思えます。

—いい芝居には何かがありますね。

いい芝居は、それを観た人の人生に何かをもたらす。この芝居を観てよかった、この台詞を聞いてよかった。明日からの人生に新しい何かが生まれる、それがいい芝居だと思うんです。インテリジェンスという、なんか気取っていると思われるのでふだんは使わないのですが、『アマデウス』という芝居にはそれがある。お客様が楽しみながら、何か人生の深いところで考えていただけるものがある。これはモーツァルトが最後に作ったオペラだと思っています。モーツァルトをお好きな方、オペラ、クラシックをお好きな方、みなさんに楽しんでいただける芝居です。

—最後に富山のファンにメッセージを。

こういうご時世、苦しみに包まれている日本で『アマデウス』をみなさんの前に行って演じます。こういう時こそ、われわれ役者は何をなさなければいけないのか、それを心してやらなければならないと思っています。オーバード・ホールはすばらしいホールですね。ここで『アマデウス』をみなさんにお目にかけることができ、たいへんうれしいです。ぜひ、観に来てください。

1982年の日本初演以来、400回を数えた傑作舞台。松本幸四郎が7年ぶりに再び挑む。



AMADEUS

アマデウス

オーバード・ホール開館15周年記念公演

2011年12月11日(日)

昼の部/13:00開演 夜の部/18:00開演

再演を重ねるたびに表現を深め、作品と一体となった名演技で観客を魅了し続けてきた松本幸四郎がサリエーリ役に扮し、天才モーツァルトの存在に揺さぶられる音楽家の心に潜む光と闇を描きます。天才モーツァルトに武田真治、その妻コンスタンツェに内山理名と、新鮮さと実力を備えた共演者を迎えキャストを一新して上演。20世紀のベストプレイ『アマデウス』の新たな出発にご期待ください。

【ストーリー】

孤児から宮廷楽長にのほりつめ、ベートーヴェン、シューベルト、リストなどを育てた作曲家サリエーリ。彼は本当にモーツァルトの天才に嫉妬し、暗殺したのか—。

音楽のために純潔を捧げることを神に誓い精進を重ねていたサリエーリ。その甲斐あって、これ以上ない地位と名声を得ていた。しかし唯一気にかかること…それは若きモーツァルトの評判—。彼が出会ったモーツァルトは、フィアンセのコンスタンツェと卑猥な言葉を口走り、行儀が悪く、子供っぽい青年であった。だが、その夜彼が耳にしたセレナーテ、その素晴らしい彼は

震撼させた。天衣無縫をそのまま具象化したような楽譜の中に“絶対の美”——“神の声”を感じるのであった。若きモーツァルトの中に真の天才を見出し、彼の才能を知れば知るほど「神は不公平だ！」と感じるようになる。そして、その彼の背後にいる“神”に人生を賭した戦いを挑むこととなる—

観た人の人生に
何かをもたらすのがいい芝居。

「つまずきながら前へ」

武田真治



プロフィール
1972年12月18日生まれ。北海道出身。1989年第2回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストでグランプリを受賞し、翌年俳優デビュー。1992年のドラマ「NIGHT HEAD」で話題を集める。映画「御法度」ではアカデミー賞助演男優賞、ブルーリボン賞助演男優賞を受賞。1995年に蛭川幸雄演出「身毒丸」で初舞台を踏んで以来、舞台での活躍も目覚ましい。映画「今日からヒットマン」(主演)では主題曲を作曲・演奏するなど、俳優のみならず幅広く活躍している。

SHINJI TAKEDA

演劇やミュージカル、ドラマや映画、サククス演奏にバラエティー番組など、各々性質の違うメディアや表現方法の全く違うフィールドを生きるのは、一体どんな感じか?、僕自身どう思っているのでしょうか(笑)。もしかしたら、ただ逃げ回ってただけかも知れません。

演技に正解なんてないはずなのに、開き直ったもん勝ちの演技論みたいなものに辟易して、無頓着にバカやれる仲間と出逢ってはそこに逃げ込み、それでも満たされない部分を満たそうと夜な夜なサククスを手にしてCLUBには飛び込んで、暗がりには怯えて、また陽の当たる場所に這い出てみたり。そこでは、以前理解出来なかったことが自分の至らなさともに見えてきて受け止めざるを得なかったり。

そしてまた、、、

幸運だったのは、それらどのジャンルに於いても、出逢う人たちがいつも一流か、もしくは後に一流と呼ばれる人たちばかりで、常に僕の向上心を刺激してくれたことですね。僕の思いもよらない景色を目の前でたくさん見せてくれて、その眩しさに触れたくて必死にもがいて付いて行っては一つ学び、欲をかいては足が纏れ失速し、また別のフィールドに逃げ込む。僕の人生なんてこれの繰り返し。ジャンルの垣根を軽々と飛び越えるマルチプレーヤーでもなんでもありませんね(笑)。

いや、、、こう振り返ると、もしかしてもしかすると、、、僕は僕の、僕なりのペースで、その時その場で学ぶべきことを学んで来たのかも

知れませんね、、、どこの馬の骨とも知らない若僧がたった一人で飛び込んだ芸の世界で、つまずきながらも学び、少しずつでも前に進んで来たんですから、、、

今日までの自分を認めてみようかな。今初めてそんな気持ちになりました。だって今度のお相手はあの松本幸四郎さんですよ!!(笑)

うわあっ、いけない、そろそろ今回の舞台「アマテウス」の話をしなくちゃっ。

内容は知っての通り、かの有名な大作曲家モーツァルトの半生を当時の宮廷作曲家最高権威サリエーリから見た嫉妬と羨望の話で、モーツァルト暗殺の歴史的噂にも迫った濃厚な結末が斬新なストーリー。幸四郎さんが三十年近く上演してきたとても大事にされ

ている演目です。僕が演じさせて頂くモーツァルト役は、以前市川染五郎さんが演じていらっしやいました、、、とんでもないものを引き継いでしまいました、、、逃げませんよ、終わるまでは(笑)。でもこれは、終わったらまたどこかに逃げ込みたくなるような高い壁であることは間違いありません。大丈夫かな。

頑張ります!、、、今は頑張りますとしか言えないけど、絶対観て損はないと断言しちゃいます。だってだって、そこには、あの松本幸四郎さんもいるんですよ!! 劇場でお待ちしておりますっ!(笑)

ハロー・ドーリー!

レインボーブリッジが見える
都内のレストランで、
『ハロー・ドーリー!』に主演する
お二人にお聞きしました。



撮影協力: T'SUKI sur la mer

コメディは
やりがいがあって
すごく好き。 **モト 冬樹**
(ホレス・ヴァンダーゲルター役)

—この話がきたときの感想からお聞かせください。

剣:とにかくびっくり、ミラクルという感じでしたね。というのも、この『ハロー・ドーリー!』は、宝塚を退団したときから、ずっとやりたかったミュージカルのひとつでした。それが私のふるさと富山ということで、二重の喜びになりました。

—モトさんはいかがですか?

モト: たまたまこの映画をテレビで観た後でした。最初は「え? オレ?」みたいな感じ。どうしようかなって思って、もう一回ビデオを観たんですよ。そしたら、ホレス役のウォルター・マッソーはそんなに踊っていないんですね(笑)。すごく面白い役だし、楽しいミュージカルだなと思っただけで、僕にできるなら、がんばってやってみようかなという気持ちになりました。

—剣さん、相手役がモトさんだと聞いたときの印象は?

剣: あっ、モトさん! すごい面白そうって思いましたね。モトさんのホレス像、愛すべきホレス像がパッと浮かんだので、映画とはひと味違うものになりそうだなって思いました。ご一緒させていただけて、幸せです!

—モトさん、相手役が剣さんと聞いたときの感想は?

モト: もう、おそれ多いこと(笑)。胸を借りるつもりで、やりたいと思います(笑)。とにかくウォルター・マッソーのキャラクターがかなり濃いですから、あれをまねしてもしようがないですし、自分なりにやるしかない。

—さて、このミュージカルの見どころですが?

剣: とにかく全部ですね。ヘリが飛んだりシャンテリアが落ちたりはしないけど(笑)、歌と踊りが中心で、人間同士の物語がちゃんと描かれているお芝居です。とにかくジェリー・ハーマンの音楽がすばらしい。『ハロー・ドーリー!』の曲を知らない人はいないでしょ。愛すべき音楽、登場人物、みんながハッピーになれるすばらしいミュージカルですね。

—ジェリー・ハーマンの曲の魅力は?

剣: バラードは、人の心をえぐるし、楽しい曲は、とにかく楽しい。ジェリー・ハーマンの曲を並べただけで一つのショーができる。だから、スタンダードとしてずっと歌い継がれていくんですね。

—日本語で日本人による初上演となります。

モト: 前例がないので、やりがいはありますよね。い

ずっとやりたかった
ミュージカルでした。

剣 幸

(ミセス・ドーリー
ギャラガー・リーヴアイ役)



モト: たくさんの出演者の中で、一人で歌う気持ちよさというのは感じましたね。今回も楽しんで歌える歌が多いようなので、わくわくします。

—おせっかいで陽気なドーリーの生き方、性格についてはどう思いますか?

剣: ものすごくプラス志向なんだと思います。自分がうまくいかなかったり、自分の好きな人が振り向いてくれなくても、違う方向から物事を見られる人なんだと思います。そして、最後は自分の思いを成し遂げる強さも持っている。その強さと明るさが、ミュージカル全体を包んでいければいいなって思います。

—金持ちのくせにケチ、口うるさい。くせのあるホレスの役柄については?

モト: まったく自分とは違うタイプなので、逆にやりやすいですね。ドーリーに対して思っている気持ちと裏腹に、悪態をついたりとか、どっかですごく甘えてたりする気持ちとか。そういう男の気持ち、これはオレもわかるなって思ったり。そういう部分を見つけて、役を自分のものにしたいと思います。

剣: モトさんは、多方面でご活躍されていていらっしゃるから、もう存分にやっていただきたいです!! コメディは人間の持つおかしさだと思うんですよ。「愛してる」っていう気持ちが、なかなか言えない人たちが集まってるか。そのへんをモトさんにつかっていけたらなと思っています。モトさんの素晴らしい感性で、たくさんのお客様が楽しんでくださると信じています。

ずれにせよ、自分たちの『ハロー・ドーリー!』をつくんなきゃいけない。

剣: 初めてのものをやらせていただく喜びがあります。だれも観たこともないものをつくる機会をいただいて、今日まで舞台を踏んできてよかったなって思います。

—オーディションで選ばれたキャストとの共演にありますが?

剣: 前回の『回転木馬』のときもそうだったんですが、本当に皆さんからいろんなことを教えられました。自分が初めて舞台上に立ったときの喜びとか、なにか必死にものをつくるときにピュアな気持ちとか。こういう機会をつくっている富山のオーバード・ホールの事業もすばらしいし、夢を追いかけて集まってくるみなさんもすばらしい。東京にいてもそんな機会はそうそうないし、貴重な体験になります。

—モトさんはこれまでにミュージカルは?

モト: これまでミュージカルは2、3度くらいしかやっていません。以前『マイ・フェア・レディ』をやったんですが、やってみたら意外に楽しかったんですよ。

—普段バンドでやってる歌とミュージカルの歌の違いは?

ハロー・ドーリー!



—ブロードウェイで活躍中のロジャー・カステヤーンさんが今回、演出することになっていますが?

剣:本場の「ハロー・ドーリー!」を体感されていていらっしゃる方ですから、とつても心丈夫です。ただ、翻訳物のコメディは、笑いに対する感覚が全然違うんですね。本場のおかしさを、どう日本人の方にわかっていただくのか。

モト:そこはすごく難しいけど、大切なところ。日本人の笑いは、繊細です。正直言って向こうのコメディって、笑えないのがいっぱいあるから。

—モトさんにとって、コメディとは?

モト:僕はコメディが好きで、舞台もコメディしかやったことがないんですけど。ふざけるんじゃなくて、場合によっては普通の舞台よりもシリアスかもしれないし、説得力もなきやいけない。そういう意味で、コメディは面白くてやりがいがありますし、すごく好きですね。笑って、こうやったら絶対っていうことはありえないですから。お客さんにもよる、タイミングにもよる、日によっても違う。生モノもいいところなんで。だからこそ、うけなくても大丈夫なくらい稽古をするわけなんだけど。

—演技する上で大切にしたいことはありますか?

モト:日本のミュージカルを観ると、そこでその歌だったら台詞を言った方がいいのって思うことがある。でも、向こうのミュージカルを観ると、台詞よりもこの歌のほうがいくなって思える。そういうミュージカルをやりたい。向こうのミュージカルって、台詞が歌だったり、歌が台詞だったりする。それがミュージカルの良さだと思うんですね。

剣:私もそういうふうに関心したいと思って、ずっとや

って来てるんですね。それから、向こうのミュージカルの場合、英語の歌詞に音がのってるんですね。それを日本語の歌詞で歌うと、どうしても不自然になっちゃう。モトさんと相談しながらですが、いかに二人の気持ちが歌になったり踊りになったりできるかですね。

モト:やっぱり気持ちですよ。

—最後にこのミュージカルを楽しみにしているみなさんに。

剣:2月という、いちばん寒くて雪の多い時だと思うんですけど、すごく熱い舞台をお届けできるように、出演者一同新しいミュージカルをつくるようにがんばりたいと思いますので、ぜひぜひ雪をかきわけてもらってくださいます。

モト:みなさんに来ていただいて楽しんでいただきたい。観た方に楽しかったねと言っていただけるような舞台を、まちがいなくお届けできると思いますのでご期待ください。

いかに二人の気持ちが、歌になったり踊りになったりできるか。

ブロードウェイの大ヒットミュージカル
日本初の日本人による日本語での上演!

Hello, Dolly!

Story

自分の幸せのために立ち上がったドーリーの恋の行方は?

人の幸せが自分の幸せだと思ってきた結婚仲介人ドーリー。しかし、そんな彼女がケチな頑固おやじホレスに恋をした! 帽子屋の女主人アイリーンにぞっこんのホレスに、どうしても振り向いてほしいドーリーは、周りの人々を巻き込み、果敢に恋の駆け引きに挑む…。



ドーリー
剣 幸

ホレス
モト 冬樹

Highlights

タイトル曲「ハロー・ドーリー!」は有名だが、ミュージカル1幕の最後に歌われる「Before The Parade Passes By(パレードが通り過ぎる前に)」(*)も名曲。ドーリーの、自分自身のために幸せになる、という思いも込められている。このナンバーが歌われる華やかなパレードのシーンには、主演・剣 幸さんの母校でもある富山県立富山工業高等学校の吹奏楽部も特別出演!

(*)当時、パレードは自己を主張する機会が少ない労働者や女性たちの自己表現の場としての意味合いもあった。劇中でドーリーが歌うこのナンバーも、夢を取り戻して、このパレードが過ぎる前にもう一度人生の晴れ舞台に再び咲こうという歌詞となっている。

Cast



アイリーン
井料 瑠美



コーネリアス
本間 憲一



ミニ
野田 久美子



バーナビー
藤岡 義樹



アーメンガード
大内 慶子



アンブローズ
佐藤 弘樹



ルドルフ
坂井 宏彰



アーネスティナ
柳川 玄奈

指揮:若林裕治 演奏:Striking Originality Band (S.O.B)
ほか実力派アンサンブルキャストも多数出演!

Staff

振付・演出:ロジャー・カステヤーン
訳詞・演出:寺崎秀臣
音楽監督:八幡 茂
舞台美術:土屋茂昭
舞台衣裳:井上サチ子
ヘアメイク:宮内宏明
歌唱指導:小林 仁
翻訳:天沼蓉子
舞台監督:北条 孝
照明デザイン:渡部良一
音 響:山本浩一
テクニカルディレクター:毎能文崇
芸術監督:奈木 隆
企画・制作:(財)富山市民文化事業団

オーバード・ホール開館15周年記念公演
名作ミュージカル上演シリーズ第2弾
「ハロー・ドーリー!」
2012年
2/3(金) 18:30開演
2/4(土) 13:00/18:30開演
2/5(日) 13:00開演(全4回公演)

特集ページで
ドーリー情報をミテミテ!
<http://www.aubade.or.jp>

→ チケット情報はP.14まで

「おなかを抱えて笑って、ほっこりあったかいものが残ったら」

ハロー・ドーリー！
制作発表



オーバー・ホールの名作ミュージカルシリーズ第2弾として上演される『ハロー・ドーリー！』の制作発表が、富山市民芸術創造センターで行われました。主要キャスト、スタッフがせいぞろいして、それぞれの抱負や決意を語りました。



剣 幸
(ミセス・ドーリー
キャラクターヴァイ)

『回転木馬』に続いて2年連続で富山から発信するミュージカルにたずさわれるのは、私にとって何よりも幸せなこと。みんなと力をあわせて最高のミュージカルにしたいと思っています。とにかくおなかを抱えて笑って、それでほっこりあったかいものが残ったな、と思っていたいただけ嬉しです。



モト冬樹
(ホレス・
ヴァンダーゲルター)

日本人キャストでは初の上演ということなので、比べられなくていいかなと思います(笑)。剣さんも明るい方でホッとしました(笑)。出演するキャラクターの一人ひとりに人間味がある楽しいミュージカルなので、楽しく観ていただいて、人間の愛情の原点のようなものを表現できたらと思っています。

アメリカン・ミュージカルは初めて参加します。これまでロンドンの『レ・ミゼラブル』とか『オペラ座の怪人』とか、歌が中心のミュージカルが主だったんですが王道のミュージカルは初めて。今からとてもわくわくしています。



井料瑠美
(アイリーン・モロイ)

劇場や稽古場などを拝見して、東京では考えられない思われた環境に驚きました。このような素晴らしい作品に参加できて光栄。ミュージカルのと真ん中、明るい作品をやれるのはうれいしです。ダンスナンバーもたくさんあるので、しっかり練習したい。



本間憲一
(コーネリアス・ハックル)



寺崎秀臣
(訳詞・演出)

4つの恋のお話です。これって一日の話なんですけど、本当にびっくりするくらいいろいろなことが起こるんです。昔のブロードウェイの王道スタイルを引き継いだ作品。ザッツ・ブロードウェイ！ザッツ・エンターテインメント！この作品を選んだのは素晴らしいことだし、オーバー・ホールで日本初の上演ができるというのもすごいこと！



八幡 茂
(音楽監督)

どの曲も耳馴染みやすい。「ハロー・ドーリー！」は名曲ですし、僕もこんな曲が書けたらと思うくらい素敵な曲です。ジェリー・ハーマンと言えば、ブロードウェイで超一流の作曲家。それを今回は剣さんに観られるというのとても楽しみです。とにかく名曲ぞろいです。

ミテミテ 読者コーナー



多数のお便りありがとうございました。

このたび彩の国さいたま芸術劇場の情報コーナーにて初めて貴誌を入手いたしました。29号の中でもとりわけ印象的だったのが平幹二朗さんのインタビューです。「俳優の仕事をしていると、苦労が苦労でない」という一文は、どのような職業にも共通できるものだと思います。苦労を苦労にせず、精進していくことが大切なのですね。いつか旅で富山を訪れ、素敵なホールで芸術を味わえまことを心より楽しみにしております。(さいたま市、S.S)

読者コーナーに投稿してプレゼントをもらおう！

今回のプレゼント
松本幸四郎さんサイン入り『アマデウス』プログラム3名様



mite miteの読者コーナーにメッセージをお寄せいただいた方の中から、抽選で3名様に松本幸四郎さんサイン入り『アマデウス』プログラムをプレゼントいたします。(当選は発送をもって代えさせていただきます。)

●オーバー・ホールで鑑賞した公演の感想などを自由にお書きください。●オーバー・ホール、mite mite本誌へのご意見、ご感想お待ちしております。

あなたのお名前、ご住所、電話番号を明記のうえ、mite mite編集部まで郵便またはFAX、メールでお送りください。

mite mite編集部 〒930-0858
富山県牛島町9-28 オーバード・ホール内
voice@aubade.or.jp FAX 076-445-5611

ミテミテ 芸術監督日記



舞台芸術は、人と人とが顔を合わせお互いの思いを理解しながら創っていく共同作業です。どんなにネット環境が整っても舞台創造の方法論は、大昔からほとんど変わりません。本当に人間の掛かる仕事ですが、とても人間的で質的な仕事であることも事実です。人は、様々な舞台芸術のジャンルを追い求めてきました。オペラ、バレエ、クラシック音楽、古典・近代演劇など。わが国は、それらが入ってくる前から、能、狂言、歌舞伎、文楽など伝統芸能と呼ばれる素晴らしい舞台も持っていました。こんなに沢山の舞台芸術作品を毎日のように上演している国は他にありません。舞台制作にたずさわること出来る喜びを忘れずに、多くの舞台芸術作品の中から素晴らしい輝きを放つ宝物を探し出し、時にはオリジナルに制作をして、これからも富山から全国に向けて、優れた舞台芸術作品を発信して行こうと思います。(雲ひとつない秋の空を見ながら・・・)

奈木 隆
富山市民文化事業団芸術監督

ミテミテ 編集後記

●とある休日、たまたま某局で「キング・オブ・コント」という番組が放映されていた。すぐ切るはずが、ついついキングが決まるまで見入ってしまった。笑いの壺をシャープに押さえたもの、しゃべくりのスピード感に重きを置いたもの、微妙的にを外しながら笑いを誘うもの、最後まで何が面白いのかわからないシニールなものまで、ネタの意外さと多様さに驚かされた(結果として斬新なものに高得点が付けられた)。少しでも笑いを取って目立ちたい、人と違う新しい笑いを開拓したい、と願う芸人同士の切磋琢磨が生み出す熱気・・・創造の女神はそんな土壌の上に降り立つのだからという思いに駆られた。巻の若者達もこの手の笑いに躊躇なく追いついていっているのだとしたら、それは途轍もなく柔軟なセンスを持ち合わせているのかもしれない。この日本をもうしばらくは期待して眺めてみよう・・・

[ミテミテ]もよろしく！
野入 潤
富山市民文化事業団事務局長

11/7 シルヴィ・ギエム&東京バレエ団 HOPE JAPAN

好評発売中!



©Kiyonori Hasegawa

- 万感の思いを込めて、ギエムが「ボレロ」の封印を解く!
- 日時=11/7(月) 18:30開演 ●会場=オーバード・ホール
 - 料金=[全席指定]S席13,000円 A席11,000円 B席8,000円 C席5,000円
 - 出演=シルヴィ・ギエム、東京バレエ団
 - 演目=[白の組曲](東京バレエ団) [Two](ギエム)
「詩人の恋」(上野水香/高岸直樹) 「ルナ」(ギエム)
「ボレロ」(ギエム/東京バレエ団)

12/25 第九交響曲“歓喜の夕べ”2011

好評発売中!



- 日時=12/25(日) 18:00開演 ●会場=オーバード・ホール
- 料金=S指定席4,900円 A指定席4,500円 B自由席3,500円(当日500円増し)
- 指揮=飯森範親 ●管弦楽=東京交響楽団
- 合唱=富山県合唱連盟「第九」合唱団
- ソリスト=平井香織[ソプラノ]、清水華澄[アルト]、村上公太[テノール]、大西宇宙[バス]

11/14 ジョイフルコンサート Vol.XIII

入場無料



- 市民のためのランチタイムコンサート
- 日時=11/14(月) 11:50開演
 - 会場=富山市民プラザ・アトリウム[2階] ●料金=入場無料
 - 出演=前田啓太[マリンバ、ピブラフォン]、
沢崎ゆみ[フルート]、荒川聖奈[ピアノ]
 - 曲目=ボザ:イマージュ リスト:愛の夢
チックコリア:子供の歌 ほか

11/18 桐朋アカデミー・オーケストラ特別演奏会

好評発売中!



スカラ座から指揮者を招きイタリア・オペラの序曲や間奏曲、レスピーギの交響詩「ローマの松」、チェロ界の重鎮 岩崎 洗の独奏でドヴォルザークのチェロ協奏曲口短調を披露。

- 日時=11/18(金) 19:00開演
- 会場=オーバード・ホール
- 料金=[全席自由]3,000円
[桐朋オーケストラ・アカデミー友の会会員・
学生・生徒・児童無料]
- 指揮=アレッサンドロ・フェッラーリ(ミラノスカラ座付属研究所教授)
- チェロ独奏=岩崎 洗(桐朋学園大学院大学教授)
- 管弦楽=桐朋アカデミー・オーケストラ
- 曲目=ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調 作品104
レスピーギ:交響詩「ローマの松」 ほか

2012/1/7 ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団

好評発売中!



- 受け継がれていく不朽の音色で新年を祝う
ニューイヤーコンサート2012
- 日時=2012/1/7(土) 15:00開演 ●会場=オーバード・ホール
 - 料金=[全席指定]S席6,000円 A席4,000円 学生券2,000円
 - 指揮=ヴァイオリン=ヨハネス・ヴィルトナー
 - 管弦楽=ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団
 - 曲目=[こうもり]序曲 「トリツチ・トラツチ・ホルカ」
「皇帝円舞曲」 「美しく青きドナウ」 ほか



12/31 ミュージカル「ハロー・ドーリー！」

好評発売中!



- 日本初の日本人キャストによる日本語での上演!
- 日時=2012/2/3(金) 18:30開演 2012/2/4(土) 13:00/18:30開演
2012/2/5(日) 13:00開演 <全4回公演>
 - 会場=オーバード・ホール
 - 料金=[全席指定]大人券5,000円
ジュニア券(小学生~高校生まで)2,000円
 - 出演=剣 幸、モト冬樹、井料理美、本間憲一、野田久美子、
藤岡義樹、大内慶子、佐藤弘樹、坂井宏彰、柳川玄奈 ほか
 - 指揮=若林裕治 ●演奏=Striking Originality Band(S.O.B)

12/11 AMADEUS(アマテウス) 作:ピーター・シェファール 演出:松本幸四郎

好評発売中!



- 20世紀のベストプレイ『アマテウス』の新たな出発!
- 日時=12/11(日) 13:00/18:00開演<全2回公演>
 - 会場=オーバード・ホール
 - 料金=[全席指定]S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円
学生券2,000円(各公演限定100枚)
 - 出演=松本幸四郎、武田真治、内山理名 ほか



2012/1/31 第22回富山県美術作家連合会展

入場無料



- 富山県を拠点に活躍する美術作家たちの作品を一堂に展示
- 日時=2012/1/31(火)~2/12(日) 併催:第4回飛越美術交流展
10:00~18:00(初日は13:30から、最終日は17:00まで)
 - 会場=富山市民プラザ・アートギャラリー[2階]、
アトリウム[2階]、マルチスタジオ[3階]
 - 料金=入場無料
 - 展示内容=日本画、洋画、彫刻[アートギャラリー]、
版画、工芸、書[アトリウム]、写真[マルチスタジオ]



◎小学生から大学生までが対象。 ◎学生券をお持ちの方は公演当日、空席からお席をご用意します。 ◎アスネット会員割引はございません。 ◎枚数は限定とさせていただきます。

アスネット
会員
募集中!

- 特典1 アスネット指定イベントのチケットを会員先行発売でいち早く入手
- 特典2 アスネット取扱いチケットが1公演通常4枚まで10%OFF
- 特典3 チケットは電話1本で代金口座引き落とし、ご自宅へ無料郵送
- 特典4 情報誌 mite mite や公演チラシなどの情報をお届け
- 特典5 入会金は無料・初年度年会費も無料

- アスネット JCBカード
年会費 2,500円
(家族会員1,600円)
*JCBのサービスも受けられるお得なカード
- アスネットハウスカード
年会費 1,800円



ご入会のお申し込み・お問い合わせはアスネットカウンターまで